

**大学コンソーシアム富山 地域課題解決事業  
平成30年度地域課題提案書（新規・継続）**

自治体等名	富山県 商工労働部 商業まちづくり課	担当者	所属 商業まちづくり課 氏名 高瀬和也 TEL 076-444-3253 E-mail kazuya.takase@pref.toyama.lg.jp
地域課題名	大学生による商店街課題解決	事業費	400千円 (20千円/半期)
地域課題の背景	<p>中心市街地の空洞化の進行等により、地域の商店街は空き店舗が目立ち、施設の老朽化や後継者不足、賑わいの低下や顧客の減少等の課題が深刻な状況にある。</p> <p>各商店街においては、これまでも地域の特色を活かした賑わい創出・魅力向上の取組みを実施しているものの、イベント等のマンネリ化や商店街活性化のアイデア不足等に陥っている。そこで、商店街と学生のマッチングの機会を創出することで、よそ者・若者の視点から新たな商店街活性化策を提案し、商店街の課題解決を図るもの。</p>		
課題の概要	<p>各高等教育機関の学生がゼミ単位などで取組み、学生自らが主体的に地域の商店街が抱える課題に関して、現地調査や分析等を実施し、必要な対策を提案する。</p> <p>調査結果は、県の政策立案に活用するとともに、各大学で成果発表会を実施し、他の学生への啓発を行う。また、提案企画は、県等の事業を活用し、実現を目指す。</p> <p>〈採択の条件〉</p> <p>①大学生が主体的に取組み、県政に反映することのできる調査内容であること</p> <p>②調査・検証の手法が具体的で実現可能性が高いこと</p>		
事業実施に当たっての協働体制	<p><b>【自治体等の役割】</b></p> <p>学生が情報収集など現地活動を行う際に、市町村等と連携しながら、必要に応じ連絡調整を行う。調査研究に必要な経費の負担、成果発表会の場への出席を呼びかけのほか、必要に応じて調整等を行う。</p> <p><b>【高等教育機関の役割】</b></p> <p>学生の目線で商店街の課題について調査・分析等を実施し、必要な対策を提案する。結果について、各大学で成果発表会を行う。</p>		

成果の活用 方法	(1) 学生が県内商店街の現状を把握するなかで、本県の商業・サービス産業への問題意識を醸成し、学生自身への意識付けとする。結果報告書は、各大学で成果発表を実施し、他の学生への啓発効果を狙う。  (2) 学生が提案した企画は、学生と商店街・市町村等で協議し、県や市等の事業を活用し、学生や商店街等が事業実施主体となり、実現を目指す。
-------------	---

作成上の注意

1. 「事業費」欄は、高等教育機関に対し支出する金額を記入願います。  
(自治体等からの事業費が、本事業実施経費の全額となります。)
2. 提案課題に関する詳細資料(秘密事項は除く)がある場合は、添付願います。
3. 提案課題が複数ある場合は、別様に記載願います。
4. 提案書は1ページに収める必要はありません。できるだけ具体的に記入願います。

## 地域課題名:「大学生による商店街課題解決」(富山県)

(魚津市中央通り商店街)

提案・指導教員 富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 助教 阿久井康平

(参加学生) 赤塚彩(1年)、秋田麻衣(1年)、天野承介(1年)、石倉志真(1年)  
石黒紗央莉(1年)、岩田尚也(1年)、遠藤咲季(1年)、大津賀柚花(1年)  
上出梨央奈(1年)、小森周(1年)、佐々木駆(1年)、鈴木祥大(1年)  
鈴木志歩(1年)、竹内滉二(1年)、田島拓弥(1年)、橘堯史(1年)  
長井大介(1年)、野本紗千(1年)、平井真琴(1年)、三浦彩萌(1年)  
三宅一輝(1年)、山形菜々子(1年)、吉田結貴(1年) 計 23 名

### 1 課題解決策の要約

本調査研究では、魚津市中央通り商店街をフィールドの対象とした。中央通り商店街の存在する市街地は、江戸期の町人街、大正期から昭和初期にかけて拡大し、盛り場として栄えてきた。1956年9月10日に発生した魚津大火で市街地の広範囲が焼失し、1950年代の都市不燃化運動を受け、1959年に中央通り商店街にも防火建築帯が適用された。中央通り商店街を構成する防火建築帯は、昨今多くの防火建築帯が老朽化によって撤去・解体されるなか、空間としていまを生きる極めて希少な事例にもなっている。一方、近年においては、地方都市において如実である人口減少、市街地の空洞化といった問題を抱え、この中央通り商店街においてもシャッター街化の問題に直面している。こういった課題を踏まえ、商店街活性化に根ざしたまちの賑わいづくりに向けた施策立案を行った。

### 2 調査研究(企画・実施を含む。)の目的

商店街活性化の課題解決に向けて、地域、自治体及び大学の協働によって最も重要となる将来ビジョンの再構築・共有機会を創出することを目的とした。本年度は、まず商店街・地元住民などの地域、自治体及び大学の3者協働によるまちあるき、KJ法などによるワークショップ、さらに地域へのヒアリング調査などを実施し、現状の課題や魅力の把握、抽出及び体系化を行い、将来ビジョンの再構築・共有を行うとともに、具体的な施策について検討することを目的とした。

### 3 調査研究(企画・実施を含む。)の内容

本調査研究の全体スケジュール及び実施内容を表1に示す。5月16日実施の初回まちあるきでは中央通り商店街を核とし、周辺環境の実態を把握することを目的に、一皮外の市街地の調査も合わせて実施した(写真1)。

#### ①6月23日実施:中央通り商店街まちあるき・フィールドワーク・ワークショップ

6月23日には地域の方々との中央通り商店街のまちあるきを踏まえて、課題抽出及び魅力発掘の観点からフィールドワークとワークショップを行った。フィールドワーク及びワークショップでは、参加学生15名を4グループに分け、それぞれのグループで地域の課題や魅力を抽出する作業を行い、発表形式に

より共有を行った(写真 2-6)。なお、当日の活動の様子は新聞記事にも取り上げられた(写真 7)。

表 1 本調査研究における実施スケジュール

	実施内容	参加者
5月16日	魚津中央通り商店街及び周辺まちあるき	地域の方々2名、魚津市職員1名、富山大学学生15名、富山大学教員3名
6月23日	魚津中央通り商店街まちあるき+フィールドワーク・ワークショップ	地域の方々5名、富山県職員1名、魚津市職員1名、富山大学学生15名、富山大学教員4名
8月4日	魚津旧市街地 たてもん祭り視察	地域の方々1名、富山大学学生6名、富山大学教員3名
8月10日	魚津市・魚津商工会議所による商店街での取り組みレクチャー	魚津市職員1名、魚津商工会議所職員1名、富山大学学生20名、富山大学教員3名
8月10日	検討グループ分け (A. 道路空間、B. 商業・建築群空間、C. イベント・エリアマネジメント)	魚津市職員1名、魚津商工会議所職員1名、富山大学学生20名、富山大学教員3名
—		各グループでの作業期間
10月24日	各グループの経過報告[学内]	富山大学学生17名、富山大学教員4名
12月2日	各グループ検討の中間発表[地域]	地域の方々15名程度、富山県職員1名、魚津市職員1名、富山大学学生17名、富山大学教員4名
—		各グループでの作業期間
1月24日	各グループの経過報告[学内]	富山大学学生14名、富山大学教員2名
—		各グループでの作業期間
3月31日	各グループ検討の最終発表[地域]	地域の方々、富山県職員、魚津市職員、富山大学学生、富山大学教員を予定



写真 1 まちあるき(5月26日実施)



写真 2 まちあるき(6月23日実施)



写真 3 フィールドワーク(6月23日実施)



写真 4 ワークショップ(6月23日実施)

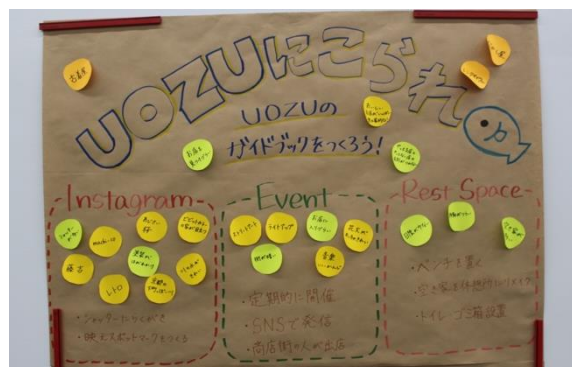


写真 5・6 ワークショップのアウトプット一例(6月23日実施)





写真 7 北日本新聞記事(6月24日)



写真 8 魚津市・商工会議所によるレク (8月10日実施)

### ②8月10日実施:中央通り商店街での取り組みレクチャー/検討グループ編成

8月10日には、魚津市商工観光課廣田氏、魚津商工会議所森氏を富山大学に招き、魚津の歴史・文化的な側面をはじめ、現状の商店街が抱える課題、これまでに実施されてきた政策や取り組みについて紹介、レクチャーを頂いた(写真 8)。同日の後半には、これまでのまちあるき、フィールドワーク、ワークショップ、地域の方々との意見交換を踏まえ、「A. 道路空間グループ」「B. 商業・建築群空間グループ」「C. イベント・エリアマネジメントグループ」の3つにグループ編成を行い、以降の具体的な施策に対する検討や提案に向けた作業を行うこととした。

### ③12月2日実施:各グループ検討の中間発表

12月2日には、中央通り商店街のイベントホールにて、これまで検討・作業を進めてきた「A. 道路空間グループ」「B. 商業・建築群空間グループ」「C. イベント・エリアマネジメントグループ」それぞれのグループから具体的な施策・提案について発表を行い、地域の方々や行政職員との意見交換を行った(写真 9-10)。



写真 9 地域での中間発表 (12月2日実施)



写真 10 地域での中間発表 (12月2日実施)

### ④3月31日実施予定:各グループ検討の最終発表

3月31日に、中央通り商店街のイベントホールにて、「A. 道路空間グループ」「B. 商業・建築群空間グループ」「C. イベント・エリアマネジメントグループ」それぞれのグループから、精査を行ってきた具体的な施策・提案について、今年度の最終発表を行い、地域の方々や行政職員との意見交換を行う予定である。

#### 4 調査研究(企画・実施を含む。)の成果

##### ①6月23日実施:中央通り商店街まちあるき・フィールドワーク・ワークショップ

フィールドワーク及びワークショップを踏まえた発表を行った結果、観光、空き店舗の利活用、戦略的な広報のあり方、自然(川・海・山)・歴史資源とまち・人との関係を考えた空間デザインなど、各班異なる様々な論点からの発表が成された。予め議論の枠組みを設けずにワークショップを実践したところ、ビジョンの基軸となるキーワードとして「賑わい」が共通項として挙げられた。一方で、その方法論の論点が明快に分かれたことが特徴的であった。

また、ワークショップでの議論において、地域の方々からも「賑わい」というビジョンが示された。また、地域の方々から商店街を取り巻く課題を端的に捉えているとのコメントを頂いた一方、「高齢化が進行する地域において、特に交通弱者にとっては近隣のスーパーにもなかなか行きづらい」「パンフや観光マップなどもこれまで制作してきたが広報が不十分、そもそも紙媒体での広報は現代的に意義を見いだせるか」「イベント実施のプレイヤーが少ない」「商店街としてイベントや祭礼等に取り組んでいるが、短期的な経済効果に止まり、根本的な地域問題の解決や潜在的な課題、魅力向上には繋がっているとは言い難い」といった意見も挙げられた。

##### ②8月10日実施:中央通り商店街での取り組みレクチャー/検討グループ編成

魚津市商工観光課廣田氏からは、中央通り商店街を取り巻くこれまでの歴史、商店数(小売業)の推移、商店街の活性化に向けた主な取り組みとして、「チャレンジショップ制度」「商店街イルミネーション事業」「新規開業助成金」「中心商店街開業支援助成金」などについて紹介を頂いた。また、魚津商工会議所森氏からは、「まちの魅力アップサポーター事業」をはじめ、空き店舗を活用したコミュニティスペース「にぎわいサロンがや我家」の展開などについて紹介を頂き、これまでの施策に関して理解を深め、共有を行った。

##### ③12月2日実施:各グループ検討の中間発表

**A. 道路空間グループ(学生 7 名):**賑わいづくりに向けて「ひとが来る、滞在する、住む」といったことを基本方針として掲げ、具体的な施策として、「歩行者空間の確保」「公共空間の活用」「景観」「駐車場・駐輪場」といった観点から提案が成された。「歩行者空間の確保」については、商店街前面の県道を専用(使用)し、歩行者にやさしい空間づくりを行うこと、関連して「公共空間の活用」についてはパークレットを実験的に設置し、購買・飲食行動を連動させながら、屋外で佇み・滞留できる空間を創出すること、「景観」については、商店街空間を横断する煩雑な電線を地中化、歩車道のレベル差解消やバリアフリー化などに配慮した舗装デザインの再構築、安全・安心に配慮した照明の構築などが挙げられた。

**B. 商業・建築群空間グループ(学生 10 名):**「商店街の多様性、個々の店舗の個性を活かす」といったことを基本方針として掲げ、具体的な施策として「商店街ファサードの調和」「シャッターアート」「歩車道のデザイン」「商店街サインボード等のデザインと統一」「老朽化が目立つ窓・サッシのリニューアル」「植物や花の展開」といった観点から提案が成された。とりわけ「商店街サインボード等のデザインと統一」については、商店主とのデザインの議論を行い、街並みを構成する要素としてマネジメントするなどの提案も成された。また、持続的な賑わいを創出するために、若者や地域を対象とするアンケート調査実施の提案も成された。

**C. イベント・マネジメントグループ(学生 6 名):**「商店街周辺のエリア価値向上」を基本方針に、「商店街の掃除」や「まち洗い」「つまみ食いつァー」「防火建築帯を活用した屋上マーケット」などの提案が成された。

## 5 調査研究(企画・実施を含む。)に基づく提言

4で挙げた検討成果の深掘り、精査を行い、それぞれグループにおける提案を3月31日の最終報告にて発表する。中間発表の際における地域からの主な意見として、「A. 道路空間グループ」については、財源の確保、商店街・地域・大学でのそれぞれの実現に向けた役割の明確化、多様な世代の関わり方を意識することなどが挙げられた。「B. 商業・建築群空間グループ」については、施策の実現に向けて地域が参画できるようなプログラム、エンターテインメント性を取り込むこと、全員がエリア価値向上にむけた一員となるプロモーションを盛り込むこと、維持管理などが挙げられた。「C. イベント・マネジメントグループ」については、イベントやプログラムに上手く参加を促す仕組みづくり、若者世代をターゲットとしたインスタグラムによる発信などが挙げられた。

また、それぞれの施策提案にあたっては、短期的に実施できるコンテンツや長期的に時間を要するコンテンツがあり、実現に向けた時間軸が異なる。こうした時間性及び実現性を踏まえ、「A. 道路空間グループ」については「①パークレットのデザインと社会実験のプログラム立案」「②歩車道照明の計画とデザイン」「③歩車道のバリアフリー化とデザイン」の3本柱、「B. 商業・建築群空間グループ」については「①シッターアートのデザインとプログラム立案」「②商店街サインボードのデザイン」「③商店街ファサードのデザイン」の3本柱、「C. イベント・マネジメントグループ」については「①エリア価値向上に資する掃除プログラム立案」「②フードツーリズムの立案」「③インスタグラムを活用したプロモーション」の3本柱を主な提言とするとともに、それぞれの施策について次年度も引き続き具体化に向けた検討を行う。

## 6 課題解決策の自己評価

富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科は今年度開設された。初年度から大学コンソーシアムからの支援を賜り、魚津中央通り商店街という実フィールドに入るとともに、地域との良好な関係づくりを構築できたことが、本調査研究を通じた最も大きな成果であると言える。

地域とのビジョン共有については、なかなか単年度で答えを得られるものではなく、継続的に地域と関わり、精査し、フィードバックしていく必要がある。本調査研究を通じて、3つの枠組み(グループ)から具体的な提言を導出したが、それぞれの施策提案の具体化について引き続き考究し続ける必要がある。また、本調査研究の成果を机上だけに止まらず、具現化に向けた財源確保、さらには地域、行政、大学、企業を巻き込んだ組織づくりやエリアマネジメントまで昇華していくことを今後の課題として掲げたい。

# 大学生による商店街課題解決

( 富山県商工労働部商業まちづくり課 )

提案・指導教員 富山県立大学工学部 星川 圭介, 榊原 一紀, 濱 貴子, 中村 正樹

(参加学生) 【前期】柿本 竜太郎(3年)、浜岸 昭任(3年)、天野 駿(3年)、  
谷川 桂太(3年)、山 哲也(3年)、柴崎 淳詞(3年)、  
前田 健吾(3年)、  
地崎 星矢(2年)、安村 亮(4年)、川端 大智(2年)、玉田 良輔(2年)、  
池上 怜汰(2年)、神谷 直人(2年)、高橋 秀河(2年)、平松 楓也(2年)、  
田中 大地(2年)、坂東 眞帆(2年)、斉藤 和哉(2年)、  
中村 賢(2年)、松嶋 慎也(2年)、薄井 裕次郎(2年)、  
野口 愛絵(2年)、  
【後期】川井 晴菜(2年)、加藤 瑠(2年)、小池 響太(2年)、児玉 雄(2年)、  
佐伯 真彬(2年)、櫻井 瑠惟(2年)、澤田 悠斗(2年)、高橋 秀河(2年)、  
飛田 滉平(2年)、羽場 太一(2年)、平松 楓也(2年)、  
深津 明日香(2年)、古谷 瑠(2年)、水口 準也(2年)  
酒井 祐樹(2年)、堀 篤弘(2年)、武藤 舜弥(2年)、  
功刀 誉章(2年)、水野 優太(2年)、有沢 航平(2年)、  
坂上 聖多朗(2年)、山崎 滉平(2年)、一ノ瀬 綾乃(2年)、  
栗田 浩希(2年)、地原 誠貴(2年)、吉田 萌佳(2年)、  
井原 慶祐(2年)、尾近 里紗(2年)

## 1 課題解決策の要約

高校生をはじめとする若者を商店街に取り込むため、高校生を対象としたアンケート調査や商工会イベントでの高校生向け企画の立案と実施、および高校生向け学習スペースの設置を行った。またインターネットを利用した店舗情報発信の試みとして、商店街の希望3店舗に対してLINE@を導入し、運用を開始した。このほか空き店舗の利用促進のため、空き店舗所有者に対して店舗賃借に関する意向調査を実施した。

## 2 調査研究(企画・実施を含む。)の目的

本事業の目的は黒部三日市商店街の活性化であり、より具体的には、(1)地元高校の生徒をはじめとする若者の商店街に対する意見の聴取、(2)商店街およびその主催イベントへの若者の取り込み、(3)インターネットを利用した情報発信、(4)空き店舗の利用促進、を目的とする活動を行った。いずれも商店街から事前に寄せられていた本事業に対する要望に即したものである。

## 3 調査研究(企画・実施を含む。)の内容

上記(1)～(4)の目的に即して学生およびその担当教員を2つのグループに分け、①から⑤の具体的



課題を設定して調査研究を実施した。

- ① 商工会によるイベント「くろべ食堂」に若者を呼び込む企画の立案および実施
- ② 高校生(若者)を商店街に呼び込む方策の検討と実施
- ③ 地元桜井高校の生徒に対するアンケート調査
- ④ 空き店舗の利用促進に向けた空き店舗の実態把握と所有者の意向調査
- ⑤ インターネットを通じた商店街に関する情報発信

授業の枠組みを利用して実施する事業であり、前期(4月～7月)と後期(10月～2月)で従事する学生が入れ替わることになるため、いずれの項目も前期で提案や方針案をまとめ後期に実施するという形をとった。前期・後期ともにグループを2つに分けて、前期はグループ1(木曜日の授業・プレゼンテーション演習・3年生・7名)が①②③、グループ2(金曜日の授業・トピックゼミ・2年生・14名)が④⑤を担当した。また、後期はグループ1が②③、グループ2が④⑤を担当するとともに、①については前期に策定した案に基づいて後期の全学生の参加により実施した。

個別の実施内容は下記の通りであり、このうち学生が参加しての現地活動はゴシック体にて示している。新聞やテレビで取り上げられたものについては※を付した。

## 2018年

### 【前期】

4月12日(木)13日(金)19日(木)20日(金)学内における事前説明と資料収集(グループ1・2)

**4月26日(木)13:30～14:30:現地見学会(前期参加全学生・担当教員)**

**5月17日(木)13:10～14:40:ワークショップ開催(商店主・前期参加全学生・教員)富山県立大学地域共同支援室※**

6月1日(金):打ち合わせ(商店主・担当教員)黒部商工会議所

6月7日(木)8日(金)14日(木)15日(金):学内における資料収集・企画(グループ1・2)

**6月21日(木)13:30～14:30:打ち合わせ(商店主・グループ1)黒部商工会議所**

**6月22日(金)16:00～17:00:打ち合わせ(商店主・グループ2)黒部商工会議所**

6月28日(木)29日(金)7月6日(金):学内における企画の修正・報告資料作成(グループ1・2)

**7月12日(木)13:30～14:30:中間報告(商店主・グループ1)黒部商工会議所※**

**7月13日(金)16:00～17:00:中間報告(商店主・グループ2)黒部商工会議所**

7月19日(木)20日(金):学内報告会準備

7月26日(木):学内報告会(グループ1)富山県立大学 13:10～14:40

7月27日(金):学内報告会(グループ2)富山県立大学 14:50～16:20

### 【後期】

9月11日(火):後期活動および黒部食堂に向けた打ち合わせ(商店主・担当教員)

10月5日(金)12日(金):学内における事前説明・情報収集

**10月19日(金)16:00～17:00:現地見学会・かつて屋改装打ち合わせ(商店主・後期参加全学生・担当教員)**

11月2日(金):黒部食堂に向けた学内準備

**11月10日(土):くろべ食堂(商店主・後期参加全学生・担当教員)**

11月16日(金):学内における資料作成

**11月30日(金)16:00~17:00:中間報告会(商店主・後期参加全学生・担当教員)**

12月7日(金)14日(金)21日(金):学内における資料作成

**2019年**

1月4日(金)11日(金):学内における資料作成

**1月25日(金):空き店舗店主へのインタビュー&SNSによる情報発信希望店主ヒアリング調査(商店主・グループ2・担当教員)**

2月1日(金):学内成果報告会

**2月15日(金):かつて屋改装実施・最終成果報告(改装班から学生3名, TA1名教員)※**

4 調査研究(企画・実施を含む。)の成果

① くろべ食堂に若者を呼び込む企画の立案・実施

他のイベント等の事例調査の結果、「黒部」の「黒」にちなんでご当地黒スイーツを地元のお店と協力して販売する企画が立案された。若者に人気のあるスイーツを、スイーツとしては珍しい黒色で統一して出食することにより話題性と集客力を向上させることを狙ったものである。

前期に示された学生の素案に基づいて9月11日(火)に地元製菓業者と協議を行い、3つの製菓業者の協力を得て「黒かりんとまんじゅう」や「黒シュークリーム」、「黒ズコットチーズケーキ」、「黒ごま饅頭」、「黒いジェラート」を販売することとなった。また商店街に隣接する桜井高校との事前協議に基づき、販売を行うテントの一角に大学生による進学・勉強相談コーナーを設けることも企画された。桜井高校には学生が作成した本企画の案内ビラを持ち込み、生徒への配布を依頼した。

くろべ食堂当日11月10日(土)は学生約20名が3班に分かれて販売を担当した。あいにく午後から時雨模様となったこともあり、ジェラートについては若干の売れ残りが出たものの、大学生が販売するという珍しさもあって10:00の販売開始から客足が途切れることなく続き、正午ごろには用意された商品はおおむね完売した。一方でくろべ食堂への来客のほとんどは家族連れや高齢者であり、本企画の対象であった高校生の姿はほとんど見られなかった。

② 高校生を商店街に呼び込む方策(かつて屋改装)

4月26日の現地見学会や5月17日に実施したワークショップ等を通じて検討を行った結果、商店街の中で特定非営利活動法人「コミュニティサポート黒部」が運営するフリースペース「かつて屋」に学習スペースを設けることにより、市役所や図書館など様々な場所で自主学習していること高校生を商店街に呼び込むという案が示された。本案は6月21日(木)の打ち合わせにおいてかつて屋の運営側に提示され、7月12日(木)の中間報告においてかつて屋の床面積の半分を勉強スペースに割り当てることが決定された。

後期の活動では10月19日(金)の打ち合わせの際にレイアウトの概要を決定したのち、高校生を対象として行ったアンケートの結果を考慮しつつ実際の間取りの具体的検討を行い、11月30日(金)の中間報告会においてレイアウトの最終決定が行われた。

2月15日(金)には作成された案に基づいて自習用の机と椅子6セットと本棚を学生4名の参加により設置した。これに先立って特定非営利活動法人「コミュニティサポート黒部」も自習スペースのために床の張替え等を実施している。

③ 高校生を対象としたアンケート

アンケートでは基本属性、勉強スペースへのニーズ、商店街の利用実態やイメージ、というおおきく 3 つの点について調査を行うことにより、高校生の商店街に対する意識や利用実態、上記勉強スペースに対するニーズを属性ごとに明らかにすることを目指した。調査は桜井高校生全学生に対して 12 月初旬に各学級における書面配布形式で実施し、505 名より有効回答が得られた。

通学経路に関する回答からは、東三日市駅の利用や徒歩・自転車で三日市を通る人が三分の一程度を占めており、これらの生徒がかつて屋の勉強スペースの利用者になりうることが明らかになった。また、勉強場所に求めるものとしては雰囲気や上げた回答が最も多く、これは上記の通りかつて屋改装案に生かされている。一方で帰宅時間として 17 時以降を挙げた生徒が大部分を占めており、現状 17 時閉店のかつて屋にとっては閉店時間の延長が課題であることが示された。

商店街の利用実態に関しては、高校の近くにあるにも関わらず商店街を利用したことがない人が全体の約 9 割を占める結果となった。一方で自転車の修理やコロッケ等の購入で定期的に利用する高校生も少数ながら一定数存在することが明らかになった。

#### ④ インターネット利用した商店の情報発信

登録者へのメッセージや配信機能がありビジネスでの利用が進んでいる LINE@サービスの希望店舗に対する試験導入を進めた。

前期においては店主の代表への LINE@の有効性や利用方法に関するワークショップを 7 月 13 日(金)に学生主体で開催した。また後期には実際に導入を希望する店舗を募り、応募した 3 店舗の LINE@画面のデザインを学生が作成した。11 月 30 日にデザインの間案を提示し、1 月 25 日に店主へのヒアリング調査を行ったのち、2 月 15 日(金)の最終報告の際に店主への披露・引き渡しを行った。

#### ⑤ 空き店舗に関する調査

空き店舗をめぐる課題の一つである貸して借り手のマッチングの問題の解決につなげるため、空き店舗の所有者 2 名に対する聞き取り調査を実施した。質問項目は下記の 7 項目である。

- ・ 店舗の状況
- ・ 店舗の設備を踏まえた入居希望業種
- ・ 希望賃料
- ・ 不動産業者仲介に対する意向
- ・ トラブルへの対処
- ・ 三日市商店街の活動や取組みに対する評価
- ・ 三日市商店街のイベントに対する評価・希望

この結果、入居者によるリフォーム等については肯定的である一方、賃貸借者間の直接契約によるトラブルに対する懸念も示された。また、シェアハウスや催し物スペースなど店舗以外の用途として貸し出すといったアイデアも示された。

#### 5 調査研究(企画・実施を含む。)に基づく提言

くろべ食堂への高校生の来訪状況やアンケート結果からは、高校生にとって商店街が縁遠い存在であることが改めて明らかになった。かつて屋に新設した勉強スペースの地道な広報やイベントにおける若者向け企画の継続など、高校生をはじめとする若者への息の長いアプローチが必要である。一方で高校生をはじめとする若者を商店街に呼び込む意義も再検討すべきである。自転車の修理や帰宅中のコロッケ

の購入など、個店に対する高校生の需要は確かに存在する。しかし商店街としてその他の需要にも応えられない限り、高校生の呼び込みは本来の意味での商店街の活性化にはつながらない可能性がある。

空き店舗に関しては賃貸に前向きな所有者からも賃貸借をめぐるトラブルを避けたい意向が示された。不動産賃貸借の仲介手数料は賃料の一か月分と定められており、所有者からの聞き取りでは 5～6 万円程度と想定される。不動産情報の発信など「売り出し方」も含めて不動産の取り扱いにたけた専門業者との連携も考慮すべきである。

## 6 課題解決策の自己評価

くろべ食堂の企画やかつて屋改装の様子が地元紙やテレビに取り上げられたことにより、商店街やその取り組みが広く知られたことは評価できる。一方で高校生など若者の取り込みに関しては実施期間中に十分な成果が得られたとはいいがたい。今後かつて屋の勉強スペースの高校生による利用動向に着目しつつ、状況に応じて継続的な関与を行う必要がある。LINE@についても 2 月に導入したばかりで効果に関する評価を行うことはできないが、導入後店主の方々は積極的に利用し始めており、商店街における新たなビジネス形態への端緒として実際の導入にまで漕ぎ着けたことは意義のあることといえる。